



教育芸術新聞 東京都千代田区九段北 4-2-25 私学会館内 編集兼発行人小出秀文 TEL 03(3261)7048 FAX 03(3261)0769 1冊100円(税込) 第5水曜休刊 (2020.01)

2020年 新春特集

へもくじ ●新春座談会 私立大学に重きをおく高等教育政策の確立 福井直敬氏、佐藤東洋士氏、小原芳明氏、中山峰男氏、谷岡一郎氏、小出秀文氏、大原啓祐氏、森本正夫氏、高柳元明氏、佐藤東洋士氏、鶴岡氏、後藤泰之、森田嘉一氏、中山峰男氏

●激動のミャンマーにおける最近10年間の大学を取りまく事情と課題 ●世界初の「ドット」留学 1923-2027年 ●AIを活用して英会話授業 ●私学関係者紙上名刺交換 ●私学出版部刊行図書

新春座談会

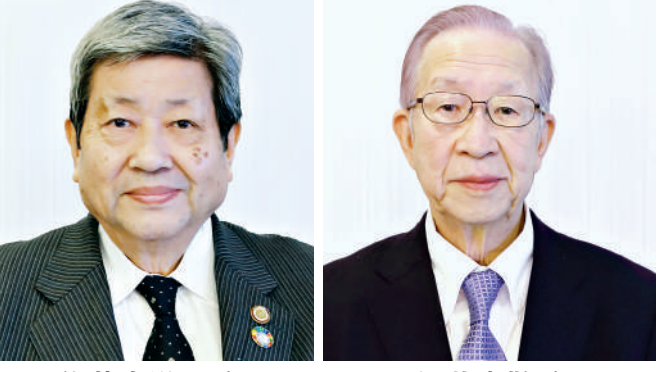
私大に重きをおく高等教育政策の確立

2020年

令和2年の新春を迎え、本紙では「私立大学に重きをおく高等教育政策の確立」をテーマに、日本私立大学協会の福井直敬会長をはじめ、副会長、常務理事ら別掲の6氏による新春座談会を開催した。なお、司会は小出秀文同協会常務理事・事務局長が務めた。昨年は私学が改正され、私立学校運営法に大きな改革が加えられた。一方、高等教育の修学支援新制度が創設され、各大学は機関要件への素早い対応に迫られた。このたびは、これらの政策や地方創生、教育制度等、高等教育政策の核心に触れるテーマで議論していただいた。

私学の多様性で困難に立ち向かう 公正な競争環境の整備を

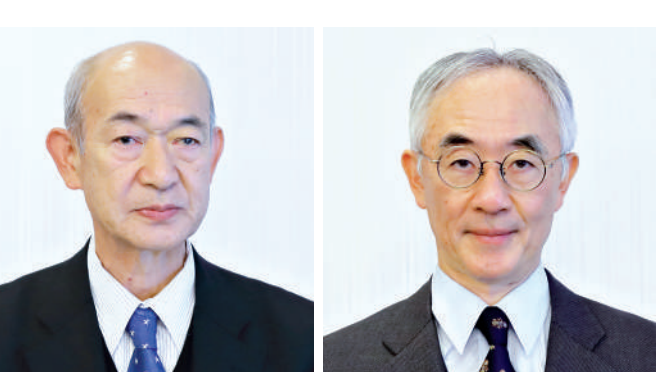
令和2年の新春を迎えて、私学振興のオビニョリターの先方に集まった。本紙の新春座談会でありました。ぜひとも、全国の私立大学に鼓舞激励のご提言をいただきたいと思っております。早速ですが、旧年5月からは、御世は「令和」と改まりました。歴では「己亥」とちの「2019年」でした。新年からは「庚子」(かのね・2020年)です。エネルギーがあふれ、混沌の多い段階から陽気に動き始める相にあたるも言われています。内外共に大変化・激動の旧年から、新年は私学振興の新しい秩序を創造する1年であつてほしいと願っています。それが、昨年の新春座談会でも述べた通り、昨年は全国で大災害が続き、常態化しています。改めて日本は災害多発国であることを感じました。その中で、安全・安心のキャンパスをつくり上げていく、各大学で極めて重要であつて、その進捗も注目した1年でした。このほかにも旧年は、私立学校法の大改正や修学支援新制度の創設、年末には大学入学



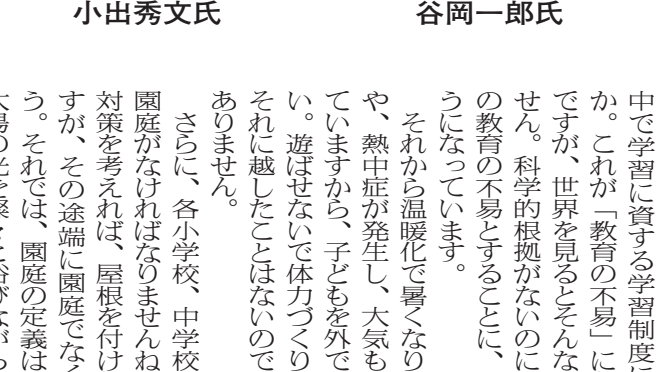
佐藤東洋士氏



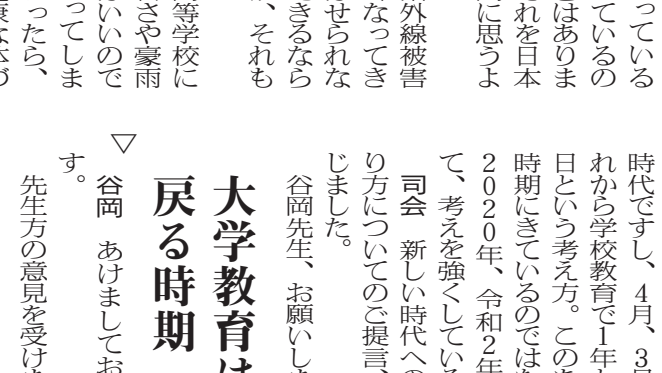
福井直敬氏



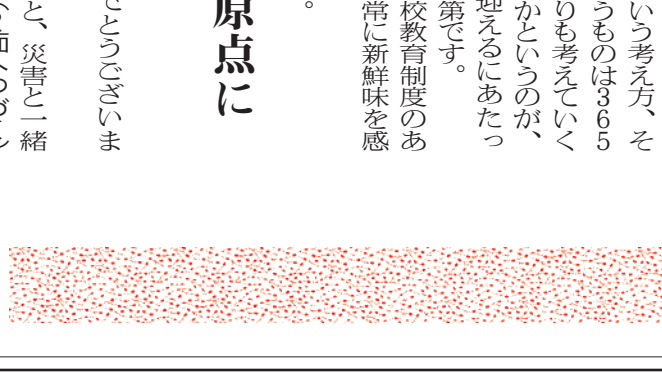
小原芳明氏



中山峰男氏



小出秀文氏



谷岡一郎氏

●出席者 (順不同)
▽福井直敬氏 日本私立大学協会会長
武蔵野音楽大学理事長・学長
▽佐藤東洋士氏 日本私立大学協会副会長
桜美林大学理事長・総長
▽中山峰男氏 日本私立大学協会副会長
崇城大学理事長・学長
▽小原芳明氏 日本私立大学協会常務理事
玉川大学理事長・学長
▽谷岡 一郎氏 日本私立大学協会常務理事
大阪商業大学理事長・学長
▽小出秀文氏 同協会 日本私立大学協会
常務理事・事務局長

共同テーマを定める混乱はたくさん課題が噴出した1年でした。まずは昨年をのりかえって、どんな年だったのか。そして、令和2年の課題は何か、その抱負も語っていただければと思います。福井会長から、いかがでしょうか。
▽福井 あけましておめでとうございます。去年は令和への改元があり、慶祝の行事が続き、国民は未来への期待や希望を抱けています。一方で、自然災害も多く、その被害を受けてきた教育機関もあり、また、多くの方が被災されたこと、未だに新年を迎えることができない方々には、心からお見舞いを申し上げます。一昨年から、地球全体の環境が少し変わってきたという感じがします。と申しますのは、近年は台風、水害が多く、予期しない大型の台風がきたりとか、温暖化で水山や水河が消失しているとか、各

「4月卒業」は明治に始まったのですが、その頃の家と比べると、はるかに自然環境は厳しくなっています。その中で、相変わらず7月まで勉強させるのか。教室に座つて6.5日経てば、自動的に学年が上がるなら良いのですが、一方で、学習成果の可視化が求められるとなると、全体の中で学習に資する学習制度になっているか。これが「教育の不変」になっている。科学の進歩が速いのに、それを日本の教育の不変とすることに、疑問に思うようになってきました。それから温暖化で暑くなり、紫外線被害や、熱中症が頻りに、大気も汚くならなくなっています。子どもを外で遊ばせられない。遊ばせなくても体力づくりができればいいのではないかと感じている次第です。司会、続いて、小原先生、いかがでしょうか。

を何年使うのか、誰も考えていないですね。それを含めて学校制度を考へるべきでしょう。昭和23年の社会環境で生まれた6.3.3.4制も、これからの時代にも合うわけではないかと、時代遅れという感じはいたします。このように、6.3.3.4制を見直す時代です。4月、3月という考え方、それから学校教育で1年というものは6.5日という考え方。このあたりも考へていく時期にきているのではないかと、2020年、令和2年を迎えるにあたって、考へを強くしている次第です。司会、新しい時代への学校教育制度のあり方についてのご提言、非常新鮮味を感じました。谷岡先生、お願いします。

1月の発行日は本号のほか、15日と22日です。
▽小原 新年あけましておめでとうございます。今年も多岐にわたる願ひがあるのですが、私もとしては、願ひばかりではなく、自分たちで努力しなければという気持ちです。
▽福井 昨年は天候の激変が特に深刻でした。大きな気候変動にあって、大学も含めた学校教育を考えたとき、環境の変化に学校の制度が馴染んでいけるのか、考える年でもありましたが、これは考えられなかった台風が上陸し、私どものキャンパスでも、風速40メートルを超えた。それは想定していた下りな強さです。果たして、梅雨明け7月下旬まで、3歳の幼児から22歳の若者までを勉強させるの制度が、気候に合わせているのかを考へようになりました。

くりに活動をするという。相変わらず明治時代、いわゆる温暖地方としての感覚が日本全国にある。それを見直す時期にきています。大学生のみならず、3歳児からの安心・安全を考へると、学修のあり方、運動施設の考へ方を基本から考へ直す時期にきているのではないのでしょうか。最後に、大学は「旧制大学」、「新制大学」と区分けされますが、「新制大学」の定義は、昭和23年の学校教育法の発足です。本学・玉川学園は面白い位置にあります。申請は旧制大学でしたが、戦争処理でのびのびに、結局、新制大学になったのです。いずれにせよ、70年経ってまだ「新制」というのは、時代ほどん変

6.3.3.4制を見直す時代
1月の発行日は本号のほか、15日と22日です

大学教育は原点に戻り
谷岡 先生、ありがとうございます。先生方の意見を受けると、災害と一緒



APU ASSOCIATION OF PRIVATE UNIVERSITIES OF JAPAN SINCE 1946

日本私立大学協会加盟大学

Table listing member universities of the Association of Private Universities of Japan, categorized by region (e.g., Hokkaido, Tohoku, Kanto, etc.).

新時代を築く 私立大学! 地域を拓く私立大学 地域リーダーの養成 多様な価値を創造する私立大学 日本から世界へ グローバル人材の養成